

施策評価調書

(H28年度)

所管部	産業港湾部
-----	-------

まちづくり5つのテーマ 4 産業振興(人・もの・情報が交流する活力あるにぎわいのまち)

施策名	5)観光
この施策の目指すべき姿とその展開方向	<p>(目指すべき姿) 恵まれた自然や特有の都市景観をはじめ、ガラスなどの伝統的工芸や新鮮な海の幸など小樽が持つ多様な資源を活用し、四季を通じて何度でもゆっくりと時間をかけてまちの魅力を味わってもらえる「観光まちづくり」を目指します。</p> <p>(展開方向) 観光資源の発掘や観光拠点の整備、多彩なイベントの創出、観光客のニーズに対応した情報やメニューの提供など観光客の回遊性を高めることにより、時間消費型観光への移行を進め、基幹産業としての発展に努めます。 また、国内外への情報発信や観光プロモーションを推進するとともに、ホスピタリティの向上など受入れ体制の充実を図り、リピーターを含む観光客の誘致に努めます。</p>

施策の内容	(1) 時間消費型観光への移行
	(2) 受入れ体制の整備・充実
	(3) 観光客誘致の推進

成果指標の推移・達成度	指標名(単位)	指標の内容				基本計画での現状値		H30目標値	
	観光入込客数(万人)	観光を目的として本市を訪れた人数				740万5,800人 (H19年度)		740.5800万人 (減少傾向に歯止めをかける)	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	実績	687.0100万人	667.7700万人	603.6000万人	659.9000万人	710.7700万人	744.7800万人	794.9300万人	
	達成度(%)	92.8%	90.2%	81.5%	89.1%	96.0%	100.6%	107.3%	
	指標名(単位)	指標の内容				基本計画での現状値		H30目標値	
	宿泊率(%)	観光客入込客数に対する宿泊客数の割合				9.0% (H19年度)		11.00%	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	実績	8.97%	8.75%	9.34%	9.30%	9.09%	8.91%	8.81%	
	達成度(%)	81.5%	79.5%	84.9%	84.5%	82.6%	81.0%	80.1%	
	指標名(単位)	指標の内容				基本計画での現状値		H30目標値	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	実績								
	達成度(%)								
	指標名(単位)	指標の内容				基本計画での現状値		H30目標値	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	実績								
	達成度(%)								
	指標名(単位)	指標の内容				基本計画での現状値		H30目標値	
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
実績									
達成度(%)									

		所管部	産業港湾部
まちづくり5つのテーマ		4 産業振興(人・もの・情報が交流する活力あるにぎわいのまち)	
施策名 5)観光			
目標の達成状況	B	(A:達成している B:順調に進んでいる C:遅れが見られる D:かなり遅れが見られる)	
施策を構成する事業	(別紙 構成事業一覧のとおり)		
成果指標の達成度等を踏まえた現状での成果や課題	<p>観光入込客数は平成27年度で795万人と堅調に推移しており、時間消費型観光への移行に向けた各種の取組により、滞在時間は平成20年度と25年度の動態調査比較で平均0.5時間の増となっている。今後は夜の観光拠点や新たな周遊ルートの開発等、滞在時間の延長、観光消費活性に向けた取組が必要である。</p> <p>受入れ体制の整備・充実に向けた取組として、観光案内所や通訳スタッフの増強、外国語マップの言語増(タイ語)、移動式Wi-Fiの導入等により国内外観光客の利便性向上を図った。また、観光ガイド「おたる案内人」は有資格者が830名を数え、ホスピタリティ意識の向上が図られた。今後も言語バリアフリー、ホスピタリティの向上に向けた取組が必要である。</p> <p>観光客誘致を推進する取組として、海外ではタイ、インドネシアなど、東南アジアをターゲットにしたプロモーションが誘客効果を上げている。今後もマレーシアなど本道との直行便就航国や北海道新幹線開業効果を生かした国内客(教育旅行者を含む。)に対する誘致の取組強化が必要である。</p>		
【一次評価】 達成度の向上等へ向けた今後の方向性 (構成事業の見直しの方向性など)	<p>今後も誘客強化のため、観光客誘致対策事業・観光施設維持管理事業・観光イベント支援事業・小樽フィルムコミッション運営事業・観光PR情報提供事業などの事業を進める。</p> <p>また、本市観光振興室と小樽観光協会が共同の執務室で業務を行いながら、役割分担等を見直し、他の関連団体等との合意形成を築くための環境整備を進め、将来の「小樽版DMO※」形成を検討する。具体的には「観光地づくりの調査・計画」「DMO推進」「観光人材育成」「文化財等の観光資源化」「インバウンド(訪日外国人旅行者)対応促進」「夜の観光活性化」などの事業展開により、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの実現に向け、官民が連携して観光振興の推進に努める。</p> <p>※ DMO: Destination Management/Marketing Organizationの略。「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役、多様な関係者が連携した組織体などと解釈されている。</p>		
市民会議による意見・提案等			
【二次評価】 本施策の今後の方向性(総合的な評価)			

(別紙 構成事業一覧)

		所管部	産業港湾部	
まちづくり5つのテーマ		4 産業振興(人・もの・情報が交流する活力あるにぎわいのまち)		
施策名	5)観光			
施策の内容	事業名	事業概要	今後の方向性	
施策を構成する事業 (総合計画基本計画 後期実施計画事業)	(1)	観光資源の整備・観光拠点の振興	朝里川温泉給湯施設の維持管理や朝里川温泉組合に対する支援。「小樽の森」事業の実現化に向けた施策の検討	継続
	(1)	観光施設維持・管理事業	朝里ダム記念館、旭展望台、毛無山展望所、鯉御殿の維持管理や海水浴場への支援などを実施	継続
	(1)	観光イベント支援事業	おたる潮まつり、小樽雪あかりの路のほか、地域魅力度を向上させる新たな観光イベント事業に対する支援	継続
	(1)	夜の魅力づくり推進事業	歴史的建造物のライトアップなどにより夜の魅力づくりを推進	継続
	(1)	回遊・散策ルート企画推進事業	おたる案内人が推薦する散策コースの提供により新たな観光ルートを開拓	継続
	(1)	広域観光事業	後志や道央圏と連携した広域的な観光ルートの作成、誘致宣伝活動などを推進	継続
	(2)	観光情報提供事業	観光案内所、国際インフォメーションセンターの運営。観光案内板等の整備。観光駐車場の管理・運営	継続
	(2)	観光ホスピタリティの向上	観光協会・観光ボランティア団体と連携し、観光客へのおもてなしの心の醸成を図る	継続
	(2)	小樽観光大学校支援事業	おたる案内人検定制度の普及により、小樽観光のひとづくりを推進	継続
	(3)	観光PR情報提供事業	国内外の観光客誘致を目的に観光ポスターや観光マップを作成	継続
	(3)	観光客誘致対策事業	物産展と連携した国内外へのプロモーション活動などにより、観光客を誘致	継続
	(3)	小樽ふれあい観光大使事業	小樽を愛する方々を「小樽ふれあい観光大使」に任命し、小樽の魅力を全国に発信	継続
	(3)	小樽フィルムコミッション運営事業	歴史的建造物や産業遺構など映像となり得る「街並み・景色」を活用し、撮影などを誘致	継続
	(3)	小樽ショートフィルムセッション開催事業	まだ広く知られていない小樽の魅力を発掘するため、ショートフィルムセッションを開催	継続
	(3)	東アジア圏観光客誘致推進事業	東アジア圏諸国へのメディアやインターネットなどを活用したPR活動やプロモーション活動の実施	継続

